

## 日本気象学会1993年度春季大会の報告

日本気象学会1993年度春季大会は、1993年5月17～19日に気象庁およびKKR竹橋で行われた。参加者数は567名(通常会員426, 学生会員119, 会員外22; なお予約参加者は148)であった。

2日目午後には総会が開かれ、定款の一部改訂が承認された。学会費と藤原賞は、それぞれ2名の会員に授与され、記念講演が行われた。これに引き続き、「メソスケールの気象予測—展望と課題—」をテーマとして大会シンポジウムが行われた。

大会翌日(20日)には、気象庁で2つの研究会(メソ気象および大気海洋相互作用)が開かれた。

発表申込件数は338件(ただしキャンセルが数件)で過去最高であり、300件を超えたのは初めてであった。その内訳は第1種講演が226, 第2種講演が88, ポスターが24件であった。第2種講演として申し込まれた講演のうち、予稿の書き方が第2種の要件を満たさない等の理由でプログラム編成時に第1種に変更された

ものが14件(前回は24件)あった。口頭発表が4会場で行われたため、所定の講演時間を確保することはできたが、講演申込数が今後も増加するならば、講演種目・時間あるいは大会期間などの見直しが避けられないであろう。会員の皆様には大会のあり方についてのご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた気象庁予報部の皆様に深く感謝の意を表します。

1993年6月 講演企画委員会

付記:大会プログラム中、座長が以下のように変更された(敬称略)。

- 第1日D会場 海洋・大気相互作用:時岡達志(気研・気候)
- 第3日A会場 雷・シビアストーム:小林文明(防衛大・地球科学)
- 第3日C会場 台風:大西晴夫(気象庁・予報)



## 研究集会「流体における波動現象の数理とその応用」講演募集

平成5年度の京都大学数理解析研究所の共同利用研究計画の一つとして、標記の研究集会が開かれます。

この集会は、流体力学、海洋学、気象学、土木工学、応用数学、物理学などの異なる分野で「流体における波動現象」に関心を持つ研究者に議論の場を提供し、今後の研究の発展の方向を探っていくことを目的とするものです。

次の要領で講演を募集いたしますので、ふるって御応募下さい。

幹事 及川正行, 久保川厚, 船越満明

開催日:平成5年10月27日(水)～29日(金)

会場:京都大学数理解析研究所

講演申込み締切:平成5年9月9日(木)

申込み要領:A4版の用紙に、1)題目、2)講演者氏名、3)所属、4)職名あるいは学年、5)連絡先(電話番号も)、6)要旨(100字程度)、7)旅費希望の有無(御希望に沿えない場合もあります)、を御記入の上お申込み下さい。またOHP以外の使用を希望される方はその旨お書き下さい。

申込み先:〒816 福岡県春日市春日公園6-1

九州大学応用力学研究所 船越 満明  
電話 092 (573) 9611 内線583  
FAX. 092 (575) 1159